

SHOW HEYシネマルーム

★★

ドリームキャッチャー

配給/ワーナー・ブラザーズ映画

2003 (平成15) 年6月26日鑑賞

Data

監督：ローレンス・カスダン

脚本：ウィリアム・ゴールドマン

原作：スティーブン・キング

出演：モーガン・フリーマン/ト

マス・ジェーン/ジェインソ

ン・リー/ダミアン・ルイス

/ティモシー・オリファン

ト

👁️👁️ みどころ

メイン州の雪に覆われた深い森。そこに1つの秘密を共有している4人の男たちが集まってきた。しかし、この男たちは次々と不吉な出来事に会い、1人また1人と・・・。「見せる恐怖」をふんだんに展開する「正統派」のホラー映画。赤い痣、細菌、エイリアン・・・それだけでも恐い上に、途方もない化け物が・・・。私は恐さに目を開けられないまま、途中退場。やっぱり映画は楽しい方がいい・・・。

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

<本当のホラー映画！>

新聞広告には「見せて上げよう。見た事を後悔するものを。」とあり、「私の小説の映画化の中で真に成功した初めてのホラー・サスペンスだ。—スティーブン・キング」と書かれてある。そして、パンフレットを事前にパラバラとめくっても、とにかく怖そうで、気味の悪そうなストーリー。

私はホラー映画は生理的に嫌い。本当に恐ろしいシーンが出てくると思わず、手で目を覆って、観ることを拒絶してしまうほどだ。

もっとも、パンフレットによれば、昔は『エクソシスト』（73年）、『オーメン』（76年）、『13日の金曜日』など、「見せる恐怖」を追求してきたが、最近では、『シックス・センス』（99年）、『アンブレイカブル』（00年）、『サイン』（02年）など、「見せない恐怖」を描こうとする風潮に変わってきている、と分析している。確かにそうだ。これら最近の「ホラー」映画は、ホラーというよりクイズ感覚という感じだ。しかし、この『ドリームキャッチャー』は、昔のホラー映画に戻り、まさに「見せる恐怖」の映画となっている

る。だから、私は・・・。

<難しいストーリー展開>

最初に4人の男たち1人1人の「特殊能力」を示すストーリーが展開される。この程度のものであれば、まあなるほど・・・と理解できる。しかし、20年前の少年時代に救った1人の少年ダディッツの物語になるともう分からなくなる。そして、雪の中の小屋に集まる4人の男たち。最初の不幸は、雪の中で遭難していた男を救ったことから始まった。そもそもこの男の風体が気味悪い。そして、雪の中に1人埋もれている老女。これも気味悪い。さらに、ありとあらゆる動物が森の中を一斉に避難している姿も無気味。そして、主役のカーティス大佐（モーガン・フリーマン）の登場。彼はエイリアンの侵略から地球を防衛する極秘任務についている部隊「ブルー・ユニット」の司令官だそうだ。そこで、「なるほど、恐怖のもとエイリアンの侵略だ」ということだけは分かったが・・・。

<怖いエイリアンはイヤ！>

遭難から救われた男の顔には赤い痣。そして大きな腹と気味悪いゲップの連続。それだけでも気持ち悪いが、さらにトイレに行った後には、大量の血が点々と。そしてトイレに座る男の姿は・・・。ああイヤだ！

そしてここで、クリーチャーというモンスターの登場。これは変な音を立てながら、突如人間を襲ってくる。そのクリーチャーたるや、ヘビの化け物のようなもので（私はまともに観ていないのでわからないが、後で平気でこの化け物を観ていたというウチのヨメさんに聞いた）、私はとても直視できない。じつと手で目を覆って、1人の犠牲者がでるところまでは我慢。

しかし、男たちは4人いる。その男たちが次々とこのクリーチャーの餌食になっていくシーンが、これでもか、これでもかという形で展開されていくと、もう我慢の限界。

映画が始まって1時間ちょっとだが、1人の客が出ていった。多分彼も私と同じように、「こんな映画もうイヤだ！」と思ったのではないか・・・。私も後10分ほど観ていたが、これ以上自分の貴重な時間を使って、こんな気分の悪い映画を観ていることは全く無意味だと決断して、遂に途中退場してしまった。こんな途中退場は、昔これも退屈極まりなかったトム・クルーズ主演の『マグノリア』（99年）を観た時以来だ。

どんな映画を好むかは人それぞれだが、私ははっきり言ってこの手の本当に怖い映画は願ひ下げ。タダで観れても時間のムダだし、自分の精神衛生上よろしくない！それにしても、この映画を観て「面白かった」とか、「楽しかった」という人の頭の中を覗いてみたいものだ。ジャンジャン！

2003（平成15）年6月28日記